

戦争をやせ、対話へ

沖縄県民平和大集会1万人超



全国連帯・沖縄から発信しようと開かれた県民平和大集会でがんばろうと唱和する参加者。右下は参加者のメッセージで形作られた魚の巨大アート=23日、那覇市

沖縄県内の70を超える市民団体や個人でつくる「沖縄を重び戦場にさせない県民会」は23日、畠田高橋が強行する沖縄・南西諸島の軍事要塞化を訴え、対話をともに戦争回避の道を求めて、那覇市の奥武山公園陸上競技場で県民平和大集会を開きました。県内外から一人超（主催者発表）が集まり、全国名門大学沖縄連携研究会平和集会が同時間催されました。

→関連の①面

メイン会場には吉原洋一、「戦場にさせないためには一矢事が駆けた。「平和」「環境を守る政治家ではないが、未来が戦争の未来であってはならない。平和の思いを全国で、全世界で共有するために行動し、声を上げてこな。まさに「いびりんじー（負けではありますとも」と語りました。大きな拍手に包まれました。

沖縄戦闘、石垣戦でマリア感染の危険性が高くなり、日本軍から強制隸属させられた山根安行さん（93）＝那覇市＝が発言。「戦争地獄の中で母を失い、やがて父とかかって死線をわざわざいた。国民を地獄に送るような政府は倒さう」と語り、いきなり一曲（八重山民謡をやめよの唄曲）を熱唱しました。

沖縄国際大学の前田博盛教授が挨拶を終じ、沖縄を

説いて「おれのやうのやがなべて奪はれるもの」と強調しました。
自衛隊施設等建設に対する沖縄市民の反対として日本共産党の、しあげく鹿児島議は「対話と外交で信頼醸成と平和継続の努力を強く求めます。地球上がの戦争をなくして、いため行動しなれ」と鹿児島が代表して読みました。

日本共産党的、あらわね政黨衆議院の眞理保野亮

議院議員も登壇。参院会派「沖縄の風」の高良鉄雄議員が代表して読みました。